

「誰でも始められる清々しい人生」
(ヨハネの福音書3章1節～21節)

牧師：原 雅幸

序) 聖書は「出会いの書」

- ・様々な登場人物を鏡にして自分自身の様々な側面と出会うことができる。
- ・様々な登場人物と出会ってくださる神と出会うことができる。
- ・神と出会い、まっすぐな関係を築き、共に生きていくのがキリスト信仰

1) 私たちの内にある「ニコデモ」への憧れ

- ・「パリサイ人」…宗教グループのメンバーであり、品行方正な生き方が常
- ・「ユダヤ人の議員」…サンヘドリンのメンバー：社会的地位がある。
- ・「イスラエルの教師」…聖書を教えるラビの学校の校長。頭脳明晰、人望
- ➡当時のラビたちは無料で聖書を教えるために稼ぎ口を持っていた。
- * 私たちの期待や憧れを体現する人物にイエスがどのように関わるのか。それによって、聖書は私たちがどこを目指して生きてよいかを示す。

2) 遮られたニコデモのアプローチ

- ・「イエスは世界最高の教師であり、その卓越した教えを聞いて自分の人生に生かそう」というニコデモのアプローチは良いように思える。
- ・しかしイエスは「人は、新しく生まれなければ」と切り返された。
- ➡「御霊によって生まれる」=神から生まれ直す必要がある=神の子どもになる必要がある。「教え」や「情報」ではなく「関係の刷新」
- ・「風(=御霊)は思いのままに吹く」=神の動きに合わせて、その関係の中に生きること。知識を基に自分一人で何が正しいのかを判断して歩んでいくのとは全く違う。「知る」次元を超えた「信じる」次元。

3) 信頼によらなくては解決できない問題

- ・「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。」
- ➡荒野で自分の欲望にかられて神に反逆したイスラエルは蛇の毒に苦しんだ。
- ⇒蛇にかたどった旗竿を掲げ、これを見上げるなら毒が癒されると神は言われた。神のこぼを信頼して見上げることが、解毒剤。
- ・人はこの毒(罪)を内に宿している。だから知識と情報でうまくやっていく道は破綻する。毒が回り、獣になってしまうか、神になろうとしてしまう。どちらも人間本来のあり方ではなく、闇の中に滅んでしまうことになる。

結) 罪の毒を抜く唯一の方法

- ・イエスの十字架が自分の罪のためであり、自分を愛する神の現れと信頼して仰ぎ見る時、神と共に生きる新しい人生が始まる。

◆お話を聞きながら、答えを考えましょう。

① ニコデモと関係のないものは、どれでしょう。

- () 生活に困っていた () 地位のある人だった
- () 聖書学校の先生をしていた () 尊敬される人だった
- () 石油で大儲け () 年が若かった
- () 神さまを信じていた

② 「新しく生まれる」とはどういうことですか。

- () もういちど、お母さんのお腹に戻って、人生をやりなおすこと
- () 神さまの子どもになること
- () 洗礼を受けること
- () その他.....



◆お話を聞いた後で、考えましょう。

* たくさんの良い教えを聞いて生きていくことと、神さまに頼って生きていくことは、どちらがいますか。あなたはどちらを希望しますか。

みんなで一週間
考えてみよう!

～教会クイズ(教理問答)～

Q028 「死に、葬られ、よみにくだり」とは、どのようなことですか。

A028 イエスさまが、わたしたちの_____のために、人として
_____に死んでくださったということです。

□ヒント□ 詩篇 139:8、ルカ 23:44-56、ヨハネ 19:38-42、ローマ 8:1-4、第一ペテロ 3:18-20、